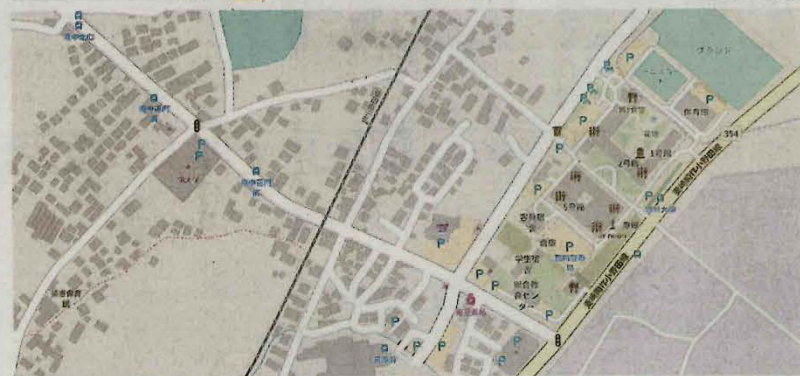


作業通じ 深まる 地域愛

理大生有志がオリジナル電子地図を製作



電子地図作りの過程で意見交換をする学生たち(上、山口東京理科大学)。学生が製作した大学周辺の電子地図



「観光、まち歩きに活用を」

山口東京理科大学工学部電気工学科の学生有志9人が、地元の地理情報を詳細に記したオリジナル電子地図を作る「地域・地理情報システム(GIS)活動」に取り組んでいる。電子地図はインターネットで公開されており、観光や気軽なまち歩きでの活用を勧めている。

公立化よりの地域と天学の連携強化が進む中、電気工学科で情報理論を教える井上啓教授が学生に呼び掛け、昨年度から

取り組んでいる。参加したのは1、2年生が中心で、大半は島根県や福岡県など県外出身者。地域の現状と課題を探りながら魅力を再発見し、地域愛を深めている。

週末を利用して全地球測位システム(GPS)端末を携えて公園や名所を歩き、主要な建物や道路に限らず、遊歩道、遊具などの位置と形状を確認。電子地図の製作と公開は、誰でも自由に編集に携わることができるネット上の地図「オープンストリートマップ」で行っている。意見交換を重ねながら専用ソフトウェアを使って地図に情報を書き加えている。

これまでに同大、若山公園、竜王山、住吉神社、江汐公園、高泊後潟周辺の計6エリアの地図を完成させた。滑り台の形や材質まで記入するなど正確性と情報量を高めたのがこだわり。また利用者が目線に立って、トイレやベンチの位置など生活情報も記載した。地図に添付する写真も撮影した。

リーダーの原大晟さん

(2年)は「市内の歴史や文化、自然に触れることができた。同じ若者世代にも地域の魅力を発信したい」と意気込みを語った。

井上教授は「ネット上での製作だけでなく、現地を歩き回って学生が地域の人や団体とつながることで、求められている県内就職にもつながる」と期待を寄せた。

地域とつながる活動として市民にも参加してもらう地理情報の収集を兼

緒に旦の登り窯や瓶垣がある旦の皿山周辺を歩く。対象は中学生以上で、定員10人。参加料2000円(保険料、資料代を含む)。申し込みは、31日までに電話で市観光課(電話02-1151)へ。(自男川)

※記事の掲載は、宇部日报社様のご厚意により許可を得ております。